

DATA FILE



六方晶系

名前	HEMATITE (ヘマタイト) / 赤鉄鉱
化学組成	Fe_2O_3
色	赤色、赤褐色、黒色
光沢	金属光沢、土状光沢
蛍光	なし
条痕	赤色〜赤褐色
劈開	なし
断面	不規則、貝殻状
硬度	5 ~ 6
比重	5.3

赤鉄鉱 HEMATITE

石英、磁鉄鉱、緑泥石、灰鉄ざくろ石などと共に共生する。

金属のような光沢や、鈍い土状光沢を持つ。

腎臓状の塊で産出した赤鉄鉱。イギリス産。

腎臓状のほか、柱状、葉片状、乳房状、ブドウ状などの塊で産する。

素焼きの陶板にこすりつけると赤色〜赤褐色の条痕が残る。

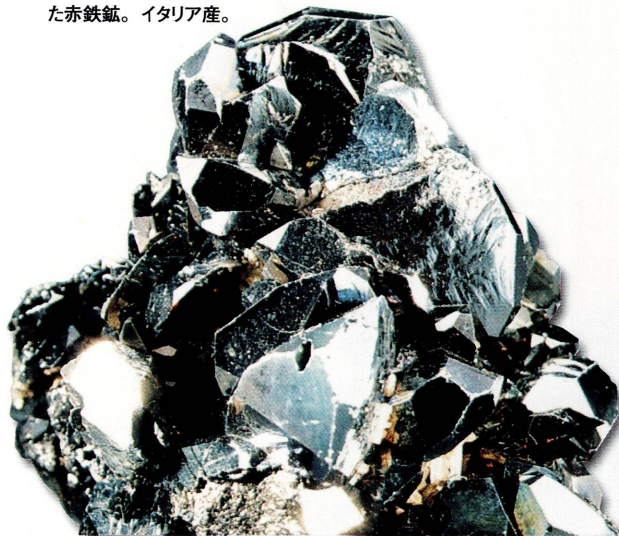
ハンマーでたたくと不規則または貝殻状の断面を示す。



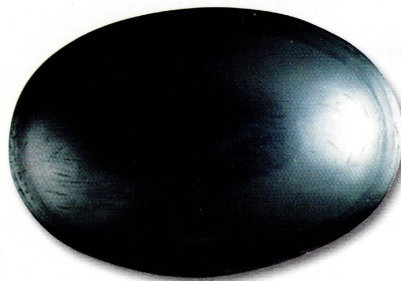
赤色の鉄鉱石

鉄を含む鉱物のなかで、磁鉄鉱と並んで地球上に多く存在する赤鉄鉱は、産状も幅広く、主に火成岩や熱水鉱床中に初生鉱物として生成するほか、酸化帯などで二次鉱物としても産し、鉄の重要な鉱石鉱物として採掘される。結晶は赤色以外にも、赤みがかった褐色や黒色であられ、暗い色のものでも、光にかざしたり粉末にすると赤色に見えるのが特徴。このことから、「血」を意味するギリシャ語が由来の英名がつけられた。なお、赤鉄鉱の粉末は「ベンガラ」と呼ばれ、赤色顔料などに利用されている。

▼金属光沢が強くあらわれた赤鉄鉱。イタリア産。



▼楕円形にカッティングが施された赤鉄鉱。



▲アリゾナ州で発見された隕鉄（フォッサマグナミュージアム所蔵）。

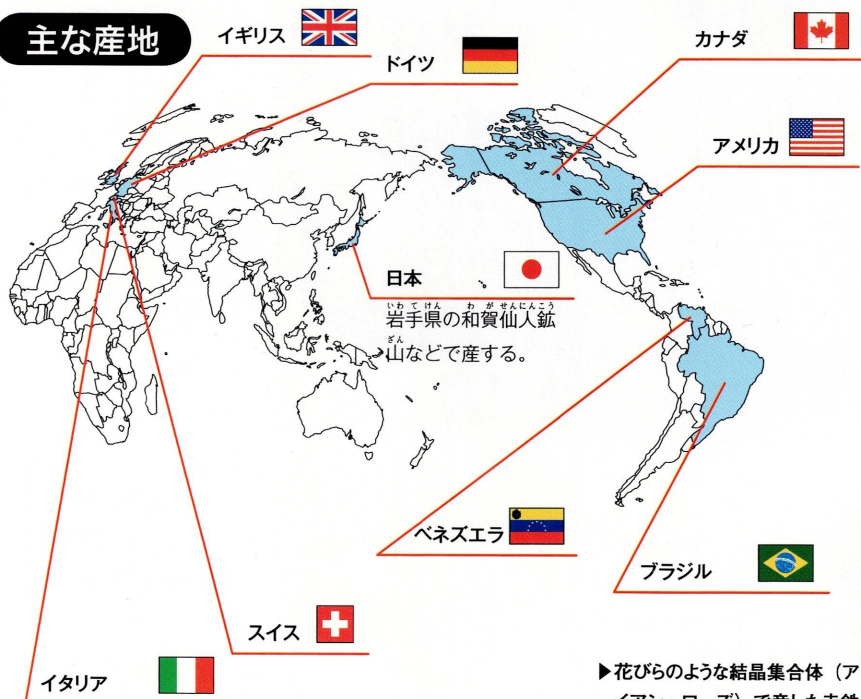
さまざまな呼称

赤鉄鉱の多くは塊になって産するが、その形状は腎臓状、乳房状、ブドウ状、葉片状など多岐にわたり、周囲の物質の影響を受けて光沢も変化する。雲母状の結晶が集まった金属光沢の強いものは「鏡鉄鉱」や「雲母鉄鉱」、花びらのような形に結晶が並んでいるものは「アイアン・ローズ（鉄のバラ）」と呼ばれるほか、宝石用に研磨された黒色のものには「ブラックダイヤモンド」という通称名がある。また、堆積岩中の基質内に小さな球状の粒で生成している結晶は、赤鉄鉱に限らず「ウーライト（魚卵状石）」という形状名で呼ばれる。

宇宙にも存在する鉄

鉄は地球の核を構成する主な成分であり、地球上で4番目に多く存在する元素だ。また、隕石にも含まれているため、宇宙に広く存在する元素と考えられており、特に鉄を多く含む隕石は「隕鉄」と呼ばれ、古くから刀など日常の道具に利用されている。

主な産地



▶花びらのような結晶集合体（アイアン・ローズ）で産した赤鉄鉱。イタリアのエルバ島産。

